

神を曳く

平成 28 年

6 月 11 日 (土) ~ 7 月 31 日 (日)

主 催 八ヶ岳美術館 原村 原村教育委員会
 協 力 信濃毎日新聞社 市民新聞グループ エルシーバイ株式会社 写真のはる
 協 賛 諏訪信用金庫 スワテック建設株式会社 たてしな自由農園



縦の大木16本を山から切り出し、坂を落とし川を越え、里を曳いて諏訪大社4つの社（上社本宮・前宮、下社秋宮・春宮）の四隅に建てる一この素材でシンプルな祭りが1200年もの長きにわたって現代に継承され、そのルーツは縄文時代に及ぶと言われています。6年に一度（7年目ごと）寅と申年に行われるこの諏訪大社式年造営御柱祭は、岡本太郎の言う「縄文人の血が騒ぐ」はるか古層の魂を呼び起こし日本人の心を揺さぶるエネルギーとパワーを持っています。

何がそうさせるのか？「日本一危険な祭り」と言われながら、時代を超えて連続と続く底流にいったい何が流れているのか？技術の伝承と共同体組織が生まれ変わっていく「神の国諏訪」の魂の在処は？

信濃毎日新聞社、市民新聞グループ、エルシーバイ株式会社の全面協力を得て、報道現場が見つめた祭りを写真パネルと映像で再現しながら「御柱の神髄」に迫ります。ジャーナリスト・専門家・氏子らによるユニークな講演会や座談会もお見逃しなく。かつては御柱を切り出していた八ヶ岳山麓御小屋山の直下にある八ヶ岳美術館に諏訪の御柱祭の感動が甦ります。

企画展に際し多大なご協力をいただいた関係者の皆様へこころより感謝申し上げます。

フルハイビジョンの4倍高画質「4K」による御柱映像を連日上映します

6月11日 (土) 11:30~
オープニングセレモニー

6月26日 (日) 13:30~15:00
講演会「世界の柱祭り」と諏訪の御柱」

講師 高見 俊樹氏（諏訪高島城長・前諏訪市教育次長）

7月16日 (土) 13:30~15:00
御柱記者座談会
「ジャーナリストが見つめた諏訪の御柱祭」

今福 英介氏（市民新聞グループ記者御柱担当）

佐久 章展氏（LCV放送制作部長）

7月 2日 (土) 13:30~15:00
講演会「神を曳く」

講師 向井 紀文氏（信濃毎日新聞本社報道部記者企画担当）

7月23日 (土) 13:30~15:00
氏子座談会 「ちからをあわせて おねがいだ〜」

北沢 重秋氏（96年ぶりのGOD HAND 抽籤大総代）
 名取 千代兵氏（ラッパ「御柱行進曲」の作曲者 富士見）
 竹森 笑子氏（日本一木やりコンクール第1回最優秀金賞者）
 小泉 友里氏（平成28年デビュー女性新人木やり師）

※いずれも会場は八ヶ岳美術館 ※参加無料（要入館料）

▶▶▶ JR小淵沢駅より八ヶ岳美術館まで直通バス 7/16 ~ 8/31 毎日運行 ◀◀◀

■ご利用案内

八ヶ岳美術館の建物は、文化勲章受章者・村野藤吾の設計によるもので、日本建築家協会25年賞を受賞しました。曲線を多用したドーム型で、天井はレースのカーテンの絞り吊りになっています。落ち着いた柔らかな明かりの中で作品をゆったりとご覧いただけます。

開館時間 9:00~17:00（入館16:30まで）
 休館日 年末年始、臨時休館を除き年中無休
 入館料 一般（高校生以上）510円（※460円）
 小・中学生 250円（※200円）
 （※）内は20名以上の団体料金

諏訪6市町村の小中学生は、図書カード、学生証などの提示により無料入館できます。

■常設展

美術作品：清水多嘉示（彫刻・絵画）、津金雀仙（書）
 考古学資料：国指定阿久遺跡をはじめ、村内の遺跡から出土した縄文式土器、石器



八ヶ岳美術館（原村歴史民俗資料館）
 〒391-0115 長野県諏訪郡原村 17217-1611Tel/Fax0266-74-2701
 e-mail yatsubi1@po19.lcv.ne.jp http://www.lcv.ne.jp/~yatsubi/



<交通案内>

■電車・バス
 JR茅野駅・富士見駅からバスの運行は季節や曜日によって変動します。必ずお問い合わせ下さい。
 ■中央自動車道
 諏訪南インターから7km
 小淵沢インターから14km